

釧路に単身赴任した当時の強烈な印象は、湿地帯が無限に広がり、牧草地に牛や馬が草を食む風景が全く本州の風景と異なり、1997年から家族で過ごしたフロリダ、オーランドの風景と酷似していることに、

私は釧路との関係は全く無いと思っていましたが、
釧路湿原の名づけ親である
北海道教育大学釧路校の田中先生の存在を知りました。

「国際交流から宇宙へ～高専の魅力」



17年、タイ、キングモンクット大学にて（左から筆者、岸前校長代行、副学長、国際部スタッフ）

開発に携わり、宇宙での組立、初期運用までを完了させ、プロジェクト解散を機に、当時の釧路高専校長・岸波先生（元北海道大学副学長）の強いお誘いに応え、釧路高専に転職した次第です。当時、大学、高専から「電気工学科」の名前がどんどん消えてしまう時代でしたので、釧路高専の「電気工学科」は正直、私にとっては大変魅力的でした。

私は、2010年9月に、前職である宇宙航空研究開発機構（JAXA）から钏路工業高等専門学校・電気工学科の教授に着任しました。JAXAでは長年、国際宇宙ステーションの設計

釧路工業高等専門学校創造
工学科教授（工レクトロニクス）
クス「ース電気工学分野）

思わず時間の流れが逆流する思いでした。また、白樺の林に霧が立ち込め、カツコウが鳴く自然風景は郷里の長野と重なり、教員室から眺めながらしばし呆然としていたことを思い出します。

学釧路分校（現北海道教
育大学釧路校）の田中瑞穂
教授が、論文で釧路泥炭地
を「釧路湿原」と呼び変え
た、という記録を発見。こ
の田中先生は、実は私の母
校である長野県立須坂高校
(当時の旧制中学) の大先
きました。

またタイ・バン
れ、釧路高専からは30名の
生を派遣しています。
る王立ギングモン
科大学との間で学
定を締結し、学生
と交流を行なつて
。これらのプロ
進は私が着任以
になって行なつて
なっています。しかし、こ
生数は、受入学生人数との
釧路高専から派遣する学
生が少なく、残念な結果に
は釧路高専からの留学希望

の留学生が来訓し、1ヶ月滞在します。この時はマレーシア、モンゴル等の国費留学生（在校生）と合わせて大変国際色豊かなキャンパスになります。

2年前に私の研究室で卒業研究をまとめた女子学生は、半年の休学を経て文科省の奨学金でフィンランドに4ヶ月滞在した留学経験を持つていました。留学前

を理解してします。

JAXAから釧路高専への転身

輩であることを母校からの
便りで知るところとなり、
着任当事、不思議な縁に思
いをはせました。

2013年には、東南ア
ジアの大学との交流を目指
し、タイ、バンコクにある
王立ギングモンクット工科
大学との学術交流協定を締
めました。

釧路高専の国際交流推進
から見えてくること
さて、私が着任してから
釧路高専で立ち上げた国際

す。卒業研究成果を学会で論文発表してもらいましたが、自信に満ちた発表で、留学がここまで学生を大きく成長させることにあらためて感慨を新たにしました。現在、この学生は大学へ編入し、大学院への進学

姿は全く無く、2020年までにASEANでのトップ10入りを掲げ、ワールドクラス、グローバル化を大きく推進するその姿に正直驚きを禁じえませんでし
た。大学キャンパスでは新たに国際中高等学校を開校

んな思いがしていります。日本
の若者にもどんどん海外
に出てほしい。留学のチャ
ンスを活かしてほしい、と
切に願います。

を目標しています。